

Movie Review58 # 弁護人

『# 弁護人』(2013 年、ヤン・ウソク監督)を amazon prime video で視聴した。視聴作品を選択する際に、YouTube のたこやき氏の意見を参考にした。

1981 年の軍事政権下で起きた釜林事件(プリム事件)を扱っている。主人公の弁護士をソン・ガンホが熱演している。のちに大統領となった盧武鎬(ノ・ムヒョン)をモデルにしている。

高卒で金儲けに走るダメ弁護士が、ある事件を契機に人権に目覚め、権力に真っ向から対峙する弁護士に変貌する話である。ソン・ガンホの演技が光る。非人道的な拷問、司法の腐敗を糾弾し、正義を貫き通し、法廷で怒鳴り散らす弁護士の姿が胸をすく。

1981 年頃の韓国。貧しさから高卒で苦学して弁護士になった SU は、本来の業務ではない不動産登記や税務を専門にして裕福なブルジョワ弁護士になる。そこへ、かつて苦学時代に食い逃げして後に交流を持つようになった飲食店主 S から助けを求められる。息子の J が反政府運動の疑いで公安に捕らえられたのだ。当時の韓国は軍事政権下(映画『ソウルの春』を参照)にあって、法の名の下に学生らの反政府活動を弾圧し、公安は非人道的な拷問まで行っていた。反政府活動被疑者の裁判は、裁判長と検事が事前相談して弁護士は及び腰になっているのが実情だったが、SU はそこに敢然と立ち向かう。公安側の拷問の事実を追及しようと証人喚問しても、法廷は公安で占められて裁判は紛糾し、逆に SU の事務所が容疑をかけられ圧力がかけられてくる。拷問を受けた学生の治療にあたった軍医から証言を得るが、検事側は軍医の冤罪をでっち上げ、証言を無効にして J たちには有罪の刑期が言い渡される。その数年後、SU は J たちと共に民主化運動の先頭に立つが、武力で鎮圧され裁判の被告になってしまう。しかし SU の弁護を担当するのは多くの先輩弁護士で、弁護人名簿には 99 名が名を連ね、傍聴席に駆け付けたそれらの弁護士が一人ずつ返事して起立する様子に、涙をこらえながら SU は微笑んだ。エンドロールまで続く名前の読み上げは感動である。

釜林事件は、1981 年の韓国・全斗煥軍事政権下で起きた冤罪事件であり、民主化運動を弾圧するために捏造された人権侵害事件である。

事件の概要

- ・発生時期：1981 年 9 月
- ・場所：韓国・釜山
- ・被害者：釜山読書連合会の大学生・社会活動家ら 22 人
- ・容疑：国家保安法違反、戒厳法違反、集会・示威法違反など

実態：

- ・警察は令状なしで不法拘禁し、拷問によって自白を強要
- ・証拠は公安当局による捏造
- ・22 人中 19 人に 1 年～7 年の懲役刑が下された

弁護とその後の展開

・盧武鉉（第 16 代大統領）と文在寅（ムン・ジェイン：第 19 代大統領）が弁護を担当

- ・再審と名誉回復：
- ・1999 年：一部容疑について無罪判決
- ・2014 年：再審で 5 人に完全無罪判決
- ・裁判所は「拷問による自白は証拠にならない」、「軍事政権に対する正当な抵抗だった」と認定

評価：★★★★★